別紙２

**２０２２年度**

**「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業 実施状況」**

**調査票**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 都道府県市名 | «実態調査用都道府県市コード»・«実態調査用都道府県市» | |
| 記入日 |  | |
| **本調査の回答者について、以下の内、あてはまる方に○を付けて下さい。**  **「派遣事業調査とは異なる」を選択した方のみ、下の太枠についてもご記入下さい。** | | |
| 派遣事業調査と同じ　　・　　派遣事業調査とは異なる | | |
| 貴団体名 | «実態調査用委託先団体名（再委託先がある場合はそちらを記入）» | |
| 記入者名 |  | |
| ご連絡先 | 電話 |  |
| ＦＡＸ |  |
| Ｅメール |  |
| 調査基準日：２０２２年４月１日時点 | | |

（ご注意）

**※１　本年度は記述回答につきましても、都道府県市名が分かるように、回答内容を報告書に掲載いたします。報告書は広く公開されますので、回答頂く際ご留意ください。**

※２　昨年度まで養成研修事業を実施されていた団体様におかれましては、昨年度の実績をご記入頂く欄がございますので、該当する欄をご記入頂きますようお願いいたします。

※３　ご回答いただいた内容につきまして、後日お問い合わせをする場合がございます。  
その際、ご都合のよい連絡先をご記入下さい。

|  |  |
| --- | --- |
| 回答期限：２０２２年１０月３１日(月)必着 | |
| 貴団体にて、**昨年度または今年度のいずれも、養成研修事業を実施されていない場合は、**右欄に「×」を記入頂き、無回答のままご返送下さい。 |  |

**１．昨年度の養成研修事業の実施状況について**

**養Ｑ１．昨年度の事業の実施状況について、当てはまるものをお選び下さい。**

１．事業を行った　→　Ｑ２へお進み下さい

２．事業を行わなかった（中止も含む）　→　Ｑ８へお進み下さい

**養Ｑ２．昨年度行った研修時間数をご記入下さい。（複数回、実施された場合は、最も長い時間行った方の時間数をご記入下さい）**

**時間　　　　　　　分**

**養Ｑ３．昨年度の研修時間数は、充分だったと思いますか。当てはまるものをお選び下さい。  
　　併せて選択理由につきましても、枠内にご記入下さい。**

１．充分だった ２．概ね充分だった ３．普通

４．やや不十分だった ５．不充分だった

|  |
| --- |
| （選択理由） |

**養Ｑ４．講師の実人数（例：Ａさんが３回授業を担当した場合、実人数では、講師は１人という扱いになります）をご記入下さい。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ①講師の人数 | ②盲ろう講師の人数 | ③全国盲ろう者協会主催の指導者養成研修会修了者 | ④特記事項 |
| 名 | ①のうち  名 | ①のうち  名 |  |

|  |  |
| --- | --- |
| （②の内訳） | |
| （ａ）県内在住の盲ろう者 | 名 |
| （ｂ）県外在住の盲ろう者 | 名 |
| （ｃ）全国盲ろう者協会の盲ろう職員（※この場合、県内、県外には数を含めないで下さい。） | 名 |

**養Ｑ５．定員、受講者数、修了者数等についてご記入下さい。なお、２つ以上の地域で実施された場合は、各地域ごとの人数を、行ごとに分けてご記入の上、特記事項に開催した地区等をご記入下さい。（例：●●市、北部・南部など）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①定員  （※１） | ②応募者数 | ③受講者数 | ④修了者数 | ⑤派遣事業への登録者数 | ⑥特記事項 |
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |  |
| 以下は、２つ以上の地域で実施された場合のみご記入下さい  （行が足りない場合は、欄外もしくは裏面にご記入下さい） | | | | | |
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |  |
| 名 | 名 | 名 | 名 | 名 |  |

※１……定員数が無い場合は、「定員なし」とご記入下さい。

**養Ｑ６．標準カリキュラムで示されている選択科目を、カリキュラムに取り入れましたか。**

１．はい　→　Ｑ７へお進み下さい

２．いいえ　→　Ｑ８へお進み下さい

**養Ｑ７．（Ｑ６で「１．はい」と回答した団体にお尋ねします）どの選択科目を取り入れましたか。当てはまる科目に○を付け、当該科目を実施した時間数をご記入下さい。**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 取り入れた科目に○ | 科目名 | 実施した 時間数 |
|  | １．盲ろう児の教育と支援 | 時間 |
|  | ２．高齢盲ろう者の生活と支援 | 時間 |
|  | ３．他の障害を併せ持つ盲ろう者の生活と支援 | 時間 |
|  | ４．盲ろう者福祉制度概論 | 時間 |
|  | ５．盲ろう通訳技術の実際 | 時間 |
|  | ６．通訳・介助員のあり方 | 時間 |
|  | ７．盲ろう者の通訳技法と留意点 | 時間 |
|  | ８．盲ろう通訳実習 （各種コミュニケーション方法ごとの体験実習） | 時間 |
|  | ９．移動介助実習 II （エスカレーター、電車・バスなどの公共交通機関の利用を想定した実習） | 時間 |
|  | １０．通訳・介助実習 II （第三者が介在する買い物、申請、面接、会議などの場面を想定した実習） | 時間 |

**２．今年度の養成研修事業について**

**新型コロナウイルス感染症に伴い、事業の中止、もしくは実施見合わせといった団体も多いことと存じます。こうしたケースに当てはまる団体につきましては、回答期日までに記入可能な項目のみお答え下さい。また、カリキュラムの提出も不要です。**

**養Ｑ８．今年度の事業の実施予定について、当てはまるものを下記からお選び下さい。**

１．事業を行う予定である（実施中、実施済みも含む）　→　Ｑ９へお進み下さい

２．事業を行わない予定である　→　Ｑ１１のみご記入下さい

**養Ｑ９．(Ｑ８で「１．事業を行う予定である」と答えた団体にお尋ねします)  
新型コロナウイルス感染症対策として、研修事業の実施に当たり、どのような配慮・工夫をされている、または行う予定ですか。下記から当てはまるものをお選び下さい。(複数選択可)**

|  |  |
| --- | --- |
| 当てはまる項目に○ | 科目名 |
|  | １．オンライン講義を取り入れる |
|  | ２．習熟度を図るため、試験を行う |
|  | ３．動画や音声など紙以外の教材を作成または使用する |
|  | ４．募集時の受講定員数を減らす |
|  | ５．同じ講義を複数回行い、一回あたりの受講者数を減らす |
|  | ６．広い会場で行う |
|  | ７．実技は一部の人のみに行ってもらい、他の受講者にはその様子を見て学んでもらう |
|  | ８．特になし |
|  | ９．その他(下の枠内に具体的にご記入下さい) |
|  |

**養Ｑ１０．今年度の養成研修カリキュラムを決める際、考慮されたことをご記入下さい。  
（例：音声の利用者が多いので、音声を主としたコミュニケーション実習を取り入れた）  
★恐れ入りますが、今年度のカリキュラムを添付して下さい。**

|  |
| --- |
|  |

**３．養成研修事業全般について**

**養Ｑ１１．****養成研修事業全般について、新型コロナウイルス感染症に起因することに限らず、困っていること、感じていることなどを自由にご記入下さい。**

|  |
| --- |
|  |

**養Ｑ１２．２０１３年４月に、厚生労働省から標準カリキュラムを示されてから今年で１０年目を迎えます。この間を振り返ってみて、標準カリキュラムがもたらした影響について、良かった又は悪かったと思う点、見直してほしい点、その他ご意見などありましたらご記入下さい。**

|  |
| --- |
| （良かったと思う点） |
| （悪かったと思う点） |
| （見直してほしい点） |
| （その他ご意見） |

★　次ページの表組みにつきましてもご回答下さい。　★

（ページ調整用　白紙）